

2025年春闘回答

過去最高額を記録!!

高い水準の賃上げを継続

7月1日現在、JAM甲信の全63交渉単位のうち、60単組が賃上げに取り組んだ。そのうち59単組から回答があり、さらに49単組では賃金構造維持分に加えて「改善分」についての回答も得られた。(以降カッコ内は昨年最終との比較)

回答・妥結の平均額は11,840円(+1,404円)であり、改善分は8,169円(+890円)と、いずれも昨年最終実績を大きく上回り、過去最高額を記録した。

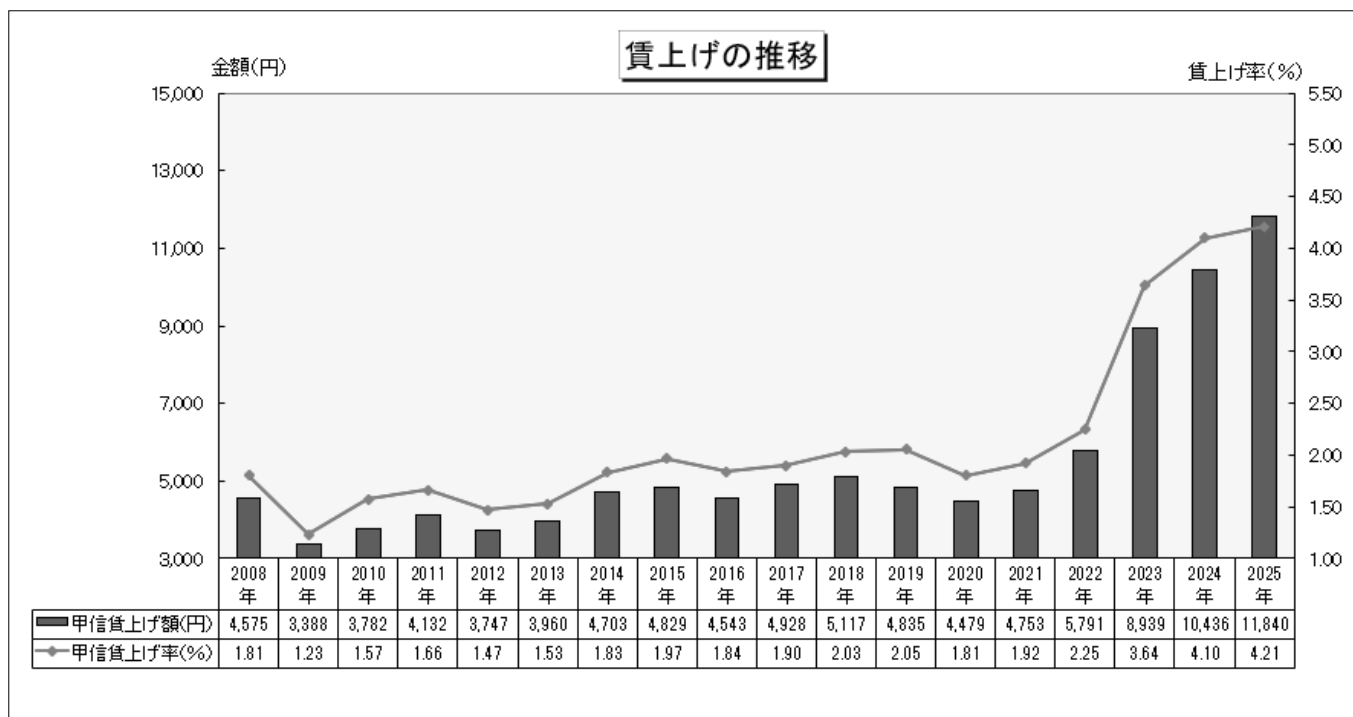
これにより、2023年を起点とした過去最高水準の賃上げを更新した。今後も賃上げ水準の歴史的な転

労組主導の取り組み 検証必要

換点として、この流れを確実に維持・拡大していくことが重要である。その上で、職場討議を徹底し、組合員の声を丁寧に吸い上げた単組では、交渉力が一層強化された結果が見られた。要求の段階から組合員の負託に応えられたかどうかを検証し、次年度以降の交渉に活かしていくことが重要となる。

一方、夏季一時金の取り組みについては、賃上げとは別交渉の単組が多く、現時点では過去最高水準で推移しているものの、今後の動向に注視していく必要がある。

交渉単位数 63単組	賃上げ			夏季一時金		
	額/円	率/%	妥結単組数	妥結月数	平均額/円	妥結単組数
実績	11,840	4.21	57	2.18	724,720	40
昨年最終	10,436	4.10		1.94	638,242	
比較	1,404	0.11		0.24	86,478	



お知らせ

2025年・労働条件調査・賃金全数調査を展開中です。全単組・支部のご協力をお願いします！

JAM甲信は、4月12日（土）に岡谷市のライフプラザマリオにて、「男女参画セミナー」を開催した。当日は女性32名（女性参加者比率33.7%）を含む32単組88名に書記局の6名が加わり、計94名が参加した。

今回は、(株)フィール・コミュニケーション代表取締役の桐生純子氏を講師に招き、「折れない心の作り方～新しい心の習慣～“レジリエンス”」と題した講演を頂いた。

桐生氏は、「レジリエンスとは『日常的ストレス

から再起する力＝しなやかな心の強さ』であると定義し、言葉は強いエネルギーを持っている。相手のストレスに寄り添うための技術として、解決策を提示せずにひたすら共感の姿勢で話を聴く『共感リアクション』を身に付けよう」と説いた。

開催後のアンケートでは、「ストレスを抑えるのは自分次第だと思っていたが、話すことの大切さに気付いた」「話したり、聴いてもらうことでモヤモヤが和らいだことから、言葉の力・エネルギーを実感した」などの声が多く寄せられ、参加者にとって有意義な学びの場となった。



女性リーダーの必要性を説く桐生講師



体を動かすワークで笑顔がほころぶ

JAM甲信は、4月17日（木）、参議院議員会館にて国会見学及び友好国会議員との懇談会を開催し、JAM甲信の役職員28名、政治連盟会員23名、計51名が参加した。また準組織内国会議員の村田享子参議院議員、友好国会議員の山梨県選出の中島克仁衆議院議員、長野県選出の篠原孝・下条みつ・福田淳太各衆議院議員、杉尾秀哉・羽田次郎両参議院



政策実現に対し思いを語る参加者

議員にもご参加を頂き、意見交換を行った。

意見交換では、多くの若年層の参加者から、「農家に的確に届く支援制度の在り方について知りたい」「選択的夫婦別姓制度が日本での導入が進まない背景とは何か」「中小企業の賃上げ促進について、企業体力の格差を踏まえた国の支援の必要性について知りたい」など、多岐に渡る現場の声や日常感じている多くの思いが友好国会議員に届けられた。意見交換は多くの意見・要望が出され、時間が足りないほど活発であった。



国政報告をする村田参議院議員（左）

JAM甲信・男女共同参画委員会は「ジェンダーフリーミーティング」を、2025年3月から6月にかけて、各地区で開催した。

男女共に働きやすい社会の実現には女性だけでなく男性の意見を取り入れることが重要であるとの考えから、昨年に引き続き、男性も参加対象にした。

ミーティング冒頭では、「【男女平等参画における直近の課題】～男女共に働きやすい環境作りに向けて～」と題して基調提起が行われた。講師は、男女共同参画委員会の池田委員長をはじめ、小尾・加藤副委員長など、男女共同参画委員会のメンバーが務めた。

基調提起では、男女の賃金の差異の公表の義務化が追加された女性活躍推進法の改正内容と現状の他、事業主が講ずべき措置等が厚労省より示されたハラスメント防止法の施行とその課題や、改正育児介護休業法の施行について説明がされた。

開催後のアンケートからは、「女性活躍推進法の存在を知ることが出来て良かった」「他の会社の方

の現状や意見を聴く機会が得られて良かった」「3歳未満の子育てをしている立場として、法改正を改めて認識できたことが有意義だった」「普段の仕事ではなかなか考える機会が無かったジェンダーについて意見交換する機会が持てて良かった」「男女共に働きやすい社会の実現に向けて、今後において取り組みを前進させていきたい」など、参加者から多くの前向きな声が寄せられた。



男女共に働きやすい社会を実現するには（飯田）

JAM甲信・青年女性協議会は、2025年4月から5月にかけて、各地区協の青年女性協議会が主催する政策制度セミナー&イベントを各地区で開催した。

前半のセミナーでは「政治を身近に感じよう」と題し小林組織部長による基調提起が行われた。提起では賃上げや価格転嫁の取り組み、ガソリン価格の高騰といった具体例を挙げながら、政治が私たちの暮らしに密接に関係していることを説いた。また、参議院選挙を間近に控える中、選挙制度についても併せて説明を行った。

提起後には、①「暮らしやすい社会を実現していくには？」②「政治を身近に感じるために、何が出来ますか？」の2つのテーマについて、グループに分かれて意見交換を行った。①のテーマでは、「賃上げを実現することで、結婚・出産をより前向きに考えられるのではないか」といった意見が出された。②のテーマでは、「選挙に行くこと、また選挙

に関して友人と意見交換を行うことで、政治への関心が高まるのではないか」といった意見が挙がった。

参加者からは「ガソリン価格高騰や給与明細を事例に説明してもらえたので、政策実現活動についてより身近に感じる事が出来た」「政策実現活動を行うことが将来を良くすることと理解できたので、今後は積極的に取り組んでいきたい」などの意見や感想が寄せられた。



暮らしやすい社会を実現するには（上伊那）

JAM甲信は、5月31日から6月1日に富士見町のジュネス八ヶ岳でステップアップセミナーを開催し、青年女性協常任幹事・事務局を含めて29単組・支部から計69名が参加した。

初日は、8チームに分かれスポーツ交流として「ふらばーるバレー」を行った。チーム毎に声を出し合い、不規則に弾むボールを追いかけて終始笑顔があふれる時間となった。その後の夕食では恒例のBBQを楽しみながら、更に交流を深めた。



みんなで掛け声「ナイス、アタック！！」



どうしたら高く立てられるか？

2日目は体験型研修として限られた条件下で高さを競う「ペーパータワー」と、マシュマロ・パスタを使ってタワーを作る「マシュマロチャレンジ」に取り組んだ。タワーの作製では多彩なアイデアが出され、2mを超える高いタワーを立てたチームも現れた。参加者からは「楽しく学べた」「他単組の参加者と交流が深められて良かった」といった前向きな感想が多く寄せられた。

JAM甲信は、6月13日から14日にJAM甲信第17回安全衛生交流集会を開催し、25単組35名が参加した。

第1部はキッツ労組のご協力の下、(株)キッツ茅野工場にて安全パトロールを実施した。参加者は安全衛生の視点から良かった点や気になった点を、メモを取りながら現場を見て回った。



安全パトロールで気付いた点は？

第2部は、会場を諏訪市の「諏訪市文化センター」に移し、グループに分かれ安全パトロールの結果を共有・討議を行った。参加者からは「全社で安全衛生への意識が高い」「製品の明記がしっかりしていた」「5Sが徹底されている」など、作業環境の安全に対する高い評価が多くあった。

翌日は、安全衛生大会教育講師で労働安全衛生アドバイザーである林谷英一氏を講師に招き「まさか！ヒューマンエラーを防ぐには」と題して講演を頂いた。

講演では、「重大災害が発生した際には事業者等には4つの責任が課される」「すべての人にヒューマンエラーを誘発する『3つの魔物』が潜んでいるが適度な緊張と一つの間でそれを追放することが出来る」と説いた。

参加者からは「交流集会を通じて、多くの気づきや学びが得られたので良かった」「講演では具体的な事例が紹介され、理解がより深まった」などの感想が寄せられた。